

■（８４） 「図書館」利用だって欠かせない再確認

何の成果もないまま定例の早朝取材を終え、東京・有楽町の喫茶店で、いつものようにホットドッグをほおばっていた。宿直勤務をしていた同僚からの携帯電話は「地下鉄・築地駅で爆発」。周辺の道を何台もの救急車がサイレンを鳴らしながら走りすぎている。

オウム真理教の地下鉄サリン事件から１７年。電撃的に逮捕された菊地直子容疑者も４０歳。街角の特別手配の写真や似顔絵とは大きく違う顔つきだった。事件の年に生まれた子はもう高校生で、逆に、いま最前線で取材する記者は当時は子どもだった。そんな年月を埋めるのに役立つのが、過去の記事や資料などの蓄積だ。新聞社やテレビ局はデータベース部門を持つ。学校でいえば図書館。かつては新聞記事の切り抜きや資料本を中心に保存していた。最近は電子データ化に伴い、蓄積が増えたうえ、目的の記事や写真などを探るのが簡単になった。明治時代の紙面でさえ、すぐに手元のパソコンに表示できる。

便利とはいえ、蓄積情報を再利用する際に欠かせないのが点検。時代が変われば、かつて正しかった話に疑問符がつくこともあるからだ。「図書館」でも確認また確認です（山）